

明石のまちづくり

AKASHI NO MACHIDUKURI

第6号

2019年10月

一発行

明石市連合まちづくり協議会

編集：広報部会

連絡先：明石市コミュニティ・生涯学習課

TEL (078) 918-5004

明石市連合まちづくり協議会のスローガン

まちづくり ゆめづくり

例えばこんな広がりも！

まちのシンボルである「朝霧川」をテーマに校区内の団体や住民と連携。興味のあるテーマを通して地域活動に関わる人が増えた。

学習支援



魚住

「みんなdeお勉強」
毎週水曜日14時半からコミセンで開催、ボランティアスタッフと一緒に楽しく勉強。

苦手な勉強も一緒にやれば、みんなで楽しくできる。
学習の機会をつくる動きが広がっています。



鳥羽

「わくわく地域未来塾」
授業内容が複雑になる小学3年生を対象にした学習支援。地域の方が先生役に。



江井島

「簡単に書ける!読書感想文」
4年目になる学習支援事業、この夏は苦手な読書感想文に挑戦。小・中学生別に実施し計87名が参加。

自然学習



「朝霧川清掃・自然観察会」

毎月第4日曜日に開催。川に棲む生き物の観察会を兼ねた「楽しい」清掃活動。

自然豊かな明石では、子ども達が自然を通して地域について学べる機会が多く見られます。



「親子で楽しむ田植え体験」

田植えから収穫、餅つきやしめ縄づくりまで、多世代交流をしながら、自然を通して日本の伝統文化を体験。

学校連携事業



松が丘

「松っ子教室」(CS事業)
10年以上続く昔遊び教室。毎週木曜日、松が丘小OBの大学生が地域の高齢者等に交じつてボランティアとして活躍。



「野外活動」

夏休み中の校庭でテント泊。ご飯のカレー作りは子ども食堂のボランティアがサポート。

こども食堂



「清水っ子いちごプラザ」

地元で育てた野菜を使った栄養バランスのとれたメニューに子どもたちも大満足。

「一緒に食べること」から始める、子どもたちの孤食解消、居場所づくりに向けて取り組まれています。



「錦ヶ浦キッチン」

毎月第2、4土曜開催。福祉ボランティア、子ども会、民生児童委員が連携して運営。

放課後居場所づくり



花園

「はなぞの公園」
毎月2回まち協拠点とグラウンドを開放した遊び場。保護者の交流の場としても活発。

コミセンなど地域内の拠点で、様々なふれあい、学びを得られる居場所の設置が増えています。

活動を知った人が「私も手伝っていいですか?」と運営センターに次々と参加中。子どもに関する取り組みが、保護者や地域の方がつながるきっかけに。

子どもや子育て世代が増えるなかで、校区まちづくり組織においても、子ども部会を立ち上げたり、まちづくり計画書で子どもへの関わりを重要施策として掲げるなど、取り組みが盛んになっています。今号では、一面で校区まちづくり組織の子どもにまつわる取り組みの一部をテーマ別に紹介し、二面では錦浦校区の実例を紹介します。

他にも各校区には様々なテーマで子どもに関する取り組みがあります。活動の情報や様子は、まちナビ AKASHI をご覧いただけます。

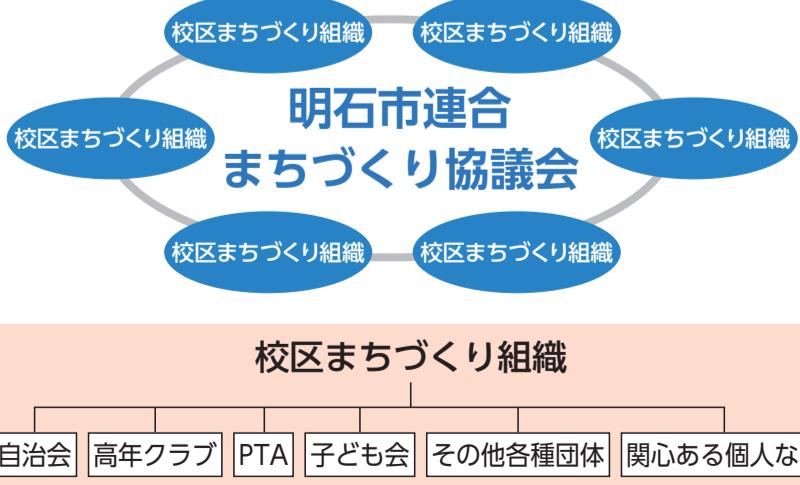
あかしのイベント・地域情報ポータルサイト

まちナビAKASHI

<http://a-machi.jp/>

令和元年度明石市連合まちづくり協議会 役員

役職	氏名	所属団体名
会長	安藤 正博	大久保まちづくり協議会
副会長	大西 功二	江井島まちづくり協議会
副会長	藤本 康文	王子まちづくり協議会
総務	伊藤 一	中崎まちづくりの会
会計	茶谷 紀元	和坂校区まちづくり協議会
監事	山村 宗夫	貴崎校区まちづくり協議会
監事	吉川 正博	二見西コミュニティ推進協議会
顧問	小川 奉文	林校区まちづくり協議会



現在、明石市には28すべての小学校において、自治会、高年クラブ、PTA、子ども会、ボランティア団体等やまちづくりに関心ある個人が連携する「校区まちづくり組織」があります。明石市連合まちづくり協議会では、各校区が集まり、幅広く連携と情報共有を進めています。

明石市連合まちづくり協議会とは

錦浦校区の取り組み

校区まちづくり組織活動紹介 第6回

明石市内の各小学校区では、それぞれの地域の実情に合わせたまちづくりを進めていきます。広報紙「明石のまちづくり」では、市連合まちづくり協議会の広報部会が取材した先進的な活動を紹介しています。

ふれあい交流会』、夏休み最後の思い出づくりの『きんぽつ子フェスティバル』など、以前から多彩な取り組みが活発な錦浦校区。平成30年のまちづくり計画書策定を経て、子どもに関する活動も活性化しており、校区内の団体や学校との連携を一層強めています。



▲奥側左から、河野さん、中嶋さん、吉久さん、濱本さん

校区見守り体制の見直し

ちと連携を始めた。学生たちに
とっては初めての経験だが、試
行錯誤しながら企画を検討して
「くれている」と吉久さんは熱く
語られました。

テーマでつながる・連携する

テーマでつながる・連携する
事業の展開において校区内の
団体や学校との連携が盛んな印
象を受ける錦浦校区、この秘訣
はどんなことがあるのでしょうか
か？

伺つたところ、『まちづくり
計画書ができる以上、錦浦は1

事務局員の濱本さん。調査の結果、実働する64名の方を確認できました。交流会では、各自の立ち位置を地図に集約して見守りのマラを確認したり、学校と今後の方策を検討したり、具体的な議論が行えたそうです。

「新しい事業を立ち上げるのも大切だけど、既にある活動を見直したり、何か足してみたりという発想も大事」と濱本さんは振り返られました。

ガード体制の見直し。7月には初めて、登録者同士の交流の場を持つた」と紹介がありました。「これまで自治会中心に活動してきたが、改めて校区全体で整理すると、活動実態のない登録者が沢山いることが分かった。そこで、名簿上の登録者約600名に往復はがきを送り継続の意思確認をしました」と話



▲スクールガード交流会では各自の立ち位置を共有

つにならないといけない」といふことを、まち協会長小林さんは意識されているようです。この思いのもと、各種団体が個別に行つて いる活動にまち協の各部会が協力したりと、校区が一部となって取り組む活動が増えました。

子ども部会長の河野さんは「子どもに関する活動が盛んな

広報部会より



吉川 正博（二見西コミュニティ推進協議会）／部会長
先進的に取り組んでいる各校区を取材し、企画にはまつた活動ではなく、地域の特性に応じたまちづくりに役立つ情報を伝えていきます。

大谷 宗雄（二見北まちづくり協議会）
広報部会の活動で、まち協の情報・活動の紹介を行い、他のまち協の参考になるように、真摯な取材・広報に努めたいと思います。



立花 正夫（山手校区まちづくり協議会）
今年も広報部会で活動します。
特色のあるまちづくりを進めておられる校区の紹介を
します。

小川 英市（沢池校区まちづくり協議会）
各校区での活動を正確にかつタイムリーに伝え、興味を持つていただける紙面づくりに努めます



田中 耕太郎（人丸まちづくり推進会）
初仕事が錦浦校区のまちづくり協議会の取材でした。質問して、答をいただいて、楽しく学べる活動と感じました。また行きます

自治会部会より

自治会の脱退・未加入問題、会員の高齢化、役員のなり手不足は全グループ一派合の困りごとでした。「災害時の助け合いの必要性を伝えてはどうか」「普段のあいさつから人とのつながりをつくる」など対応策を熱心に議論しました。アンケートでは、「実例を聞く」ことができヒントをもらえた」「自治会は共助組織であることがわかった。アピールしたい」「自治会の運営方法を工夫したい」といった感想が多く寄せられました。

困りごと解決の一例

- ◆相談する人がいない
⇒熱心に自治会活動をしている数人に、相談できる体制を整えている。
 - ◆役員間の連絡等が難しい
⇒LINEでグループを作り情報共有。
 - ◆行事の運営を担う人がいない
⇒行事等を含めたサポーター制度をつくっている。行事はサポーターが中心に運営。



▼研修会当日の様子

新自治会長の悩みを意見交換 —自治会・町内会新会長研修会—